

令和7年度 事業報告書



一般財団法人札幌市環境事業公社

目 次

I 事業総括	1
--------------	---

II 事業報告

1 調査啓発事業	2
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	3
3 資源化事業	
3-1 剪定枝等処理事業	4
3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業	5
3-3 施設管理受託事業	
(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業	7
(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	10
(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	11
(4) 札幌市リサイクル団地管理事業	12
4 事業系ごみ収集運搬事業	13
5 重点項目の実施状況	15
事業報告の附属明細書	16

I 事業総括

当社は、廃棄物の適正処理及び再資源化を推進し、都市環境の確保と資源循環型社会の推進に寄与するため、札幌市と連携し、調査啓発事業、資源化事業、事業系ごみ収集運搬事業等の事業を実施している。

令和7年度の国内経済は、緩やかな景気回復が続く中、事業系ごみ収集量も体積ベースではほぼコロナ前の水準まで回復してきた。

令和8年1月1日から札幌市の一般廃棄物処理手数料（処理費用など）が改定（値上げ）され、これに伴う令和8年4月1日収集分よりの収集運搬料金の改定準備を行った。

各事業の実施状況について、調査啓発事業では、「びん・缶・ペットボトル選別事業に関する調査」を令和6年度から継続して実施した。

「不燃用プリペイド袋リサイクル事業」については、概ね計画どおりの処理実績となった。

資源化事業について、「びん・缶・ペットボトル選別事業」では、選別処理に支障が生じないよう適切な管理運営に努めた。また、施設の計画的な保全整備として、中沼・駒岡両資源選別センターのエレベーター及び小荷物専用昇降機の更新などを実施した。

施設管理（総括管理）業務を受託している「ごみ資源化工場」、「中沼プラスチック選別センター」、「中沼雑がみ選別センター」等においても、円滑な運営管理を行うことができた。

なお、「剪定枝等処理事業」については、本年度末をもって終了した。

基幹事業である「事業系ごみ収集運搬事業」における収集量は、体積ベースで計画比2.2%増（前年度実績比1.5%増）の1,053千 m^3 、重量ベースで計画比0.8%減（前年度実績比0.5%減）の156千tとなった。

また、下記の重点項目についても、着実に各種取組を進めることができた。

総じて、「持続可能な事業運営」に努め、事業全般を通じて安定した収集運搬・処理体制の確保により、適切に事業運営を行うことができた。

■ 重点項目

- 事業系ごみ収集運搬事業の効率化と顧客サービスの向上

ごみ量の変化に対応した効率的な収集体制の確立と、関係各所と連携した取組やインターネットの活用などによる顧客サービスの向上

- 施設の計画的な整備・保全管理

中沼・駒岡両資源選別センターの老朽化対策

- リサイクル等に関する調査研究

将来の事業につながる新たなリサイクル技術等の調査研究

- 顧客や市民への積極的な情報発信

ごみの減量・リサイクルの推進や公社の取組に関する積極的な情報発信

- 事務・事業の見直し及び経費の節減

事業環境の変化や社会のニーズに対応した事務・事業の再編・再構築や、効果的な支出の徹底

Ⅱ 事業報告

1 調査啓発事業（決算額 57,212,598 円）

■事業概要

事業経緯	公社設立当初の平成2年から実施している自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業であったが、同計画は令和7年度で完了見込み。
目的	リサイクル等に関する調査研究、リサイクルの普及啓発
実施内容	・調査研究事業～ごみの資源化やリサイクル等に関する調査研究を実施。 ・普及啓発活動～資源循環型社会の実現に向けて、ごみの減量やリサイクルの重要性について広く市民や顧客に普及啓発するため、広報活動による情報発信や環境関連のイベントへの出展、協賛を行っている。

■令和7年度事業実績 ※令和7年度事業計画の重点事業として実施した。

(1) 調査研究事業

ア びん・缶・ペットボトル選別事業に関する調査

札幌市のごみ出しルールでは、ペットボトル等は「潰さずに排出する」とこととされている。しかし、近年は容器の大型化や軽量化が進み、これに伴い、選別の現場では処理量の減少や資源物の品質低下などの課題が生じている。

このため、令和6年度及び令和7年度において、ペットボトルや缶類を潰した場合にプラント設備へ与える影響を調査した結果、設備への支障は概ね認められず、処理効率の向上が確認された。引き続き令和8年度もごみ出しルール見直しに向けた基礎的調査、分析を継続する。

(2) 普及啓発活動

ア 広報活動

(ア) 公社の事業内容及び事業計画、事業報告、施設運営実績等をまとめた「事業概要」を発行し（250部）関係先に配布した。

(イ) びん・缶・ペットボトルのリサイクルの普及啓発のため、小学校4年生向けの「キッズパンフレット」を発行し（17,000部）、市内全校に配布した。

(ウ) 市内の小学校4年生から、びん・缶・ペットボトルのリサイクル等に関する啓発ポスターを募集し、最優秀賞となったものを当公社のごみ収集車の車体側面に掲示して「走る掲示板」とする啓発活動を行った。

(エ) ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信した。

イ イベントへの参加・協賛及び広告掲載等によるPR

(ア) 例年参加している「環境広場さっぽろ」等の環境関連イベントに出展し、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発を行った。

(イ) 「さっぽろこども環境コンテスト」その他各種イベント等への協賛のほか、雑誌等の各種広告媒体を活用した広報・普及啓発を行った。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 69,186,923 円)

■事業概要

事業経緯	平成 21 年 4 月から実施している公社の自主事業。平成 24 年度からは公益目的支出計画の実施事業であったが、同計画は令和 7 年度で完了見込み。
目的	資源の有効利用、埋立地の延命化
実施内容	市内少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出される不燃ごみを対象に、びん・缶・ペットボトル、金属類等の資源物を選別してリサイクルしている。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場内に設置した積替保管施設 ※チップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設 ※選別に係わるものは公社が設置

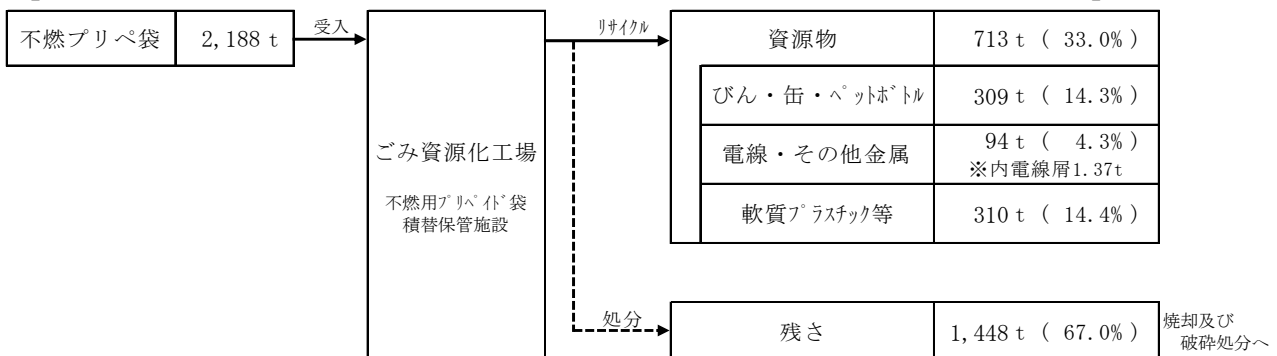
【選別品目と活用方法】

選別品目	選別後の活用方法等
びん・缶・ペットボトル	一括選別して中沼資源選別センターに搬入し、品目ごとに再選別
電線・その他金属	金属再生事業者へ売却
軟質プラスチック等	ごみ資源化工場の固形燃料原料として活用

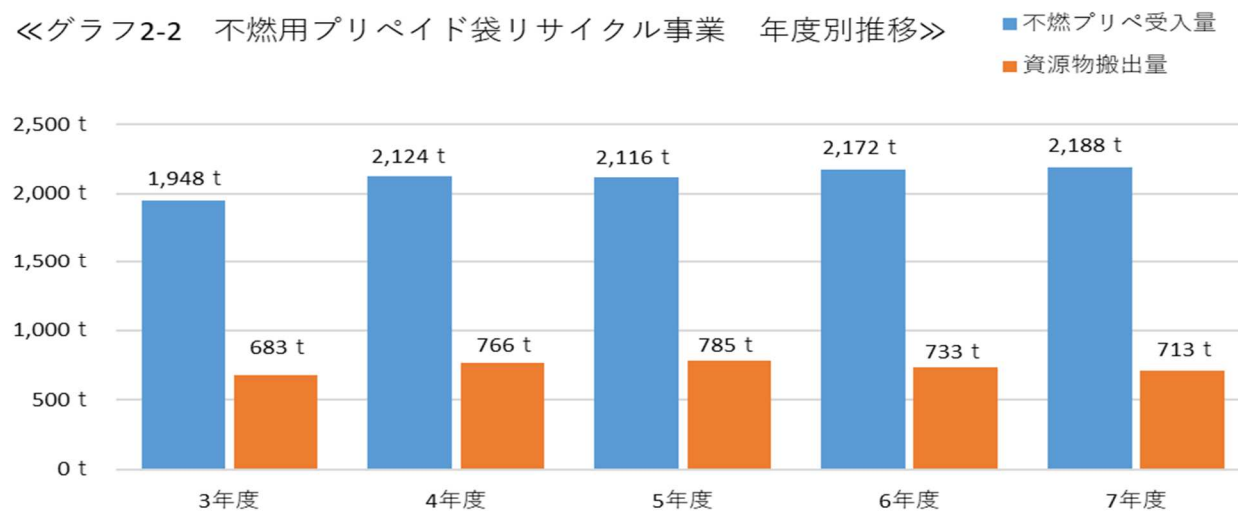
■令和 7 年度 事業実績

項 目	計 画	7年度実績	6年度実績	摘 要
不燃用プリペイド袋受入量	2,200 t	2,188 t	2,172 t	計画比 0.5% 減、前年度実績比 0.7% 増
資 源 物	783 t	713 t	733 t	計画比 8.9% 減、前年度実績比 2.7% 減
リサイクル率	34.9%	33.0%	33.5%	

【図2-1 令和 7 年度 不燃用プリペイド袋リサイクル事業実績フロー図】



≪グラフ2-2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 年度別推移≫



3 資源化事業 (決算額 1,271,983,083 円)

3-1 剪定枝等処理事業 (決算額 30,568,820 円)

■事業概要

事業経緯	平成 20 年 10 月から当公社の自主事業として実施していたが、木質バイオマスの需要増加に伴う剪定枝等の受入量の大幅な減少と、札幌市の方針を踏まえて、令和 7 年度末をもって事業を終了した。
目的	資源の有効利用、清掃工場の負荷軽減、埋立地の延命化
実施内容	街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等を受け入れ、破砕処理等して 45mm 以下のチップに加工し、堆肥の原料やボイラー熱源、畜舎の敷きわら等として需要先に供給している。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設 ※行政財産使用許可により、公社が借り受け 横型回転破砕機 (15 t/h) × 1 基、振動篩等

【受入対象物】 街路樹や公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等で、一般廃棄物であるもの
※産業廃棄物の受入れは行わない

【受入条件】 幹は直径 80 cm 以内、長さ 2m 以内
根は最大寸法 (直径又は長さ) 1m 以内で、土を落としたもの

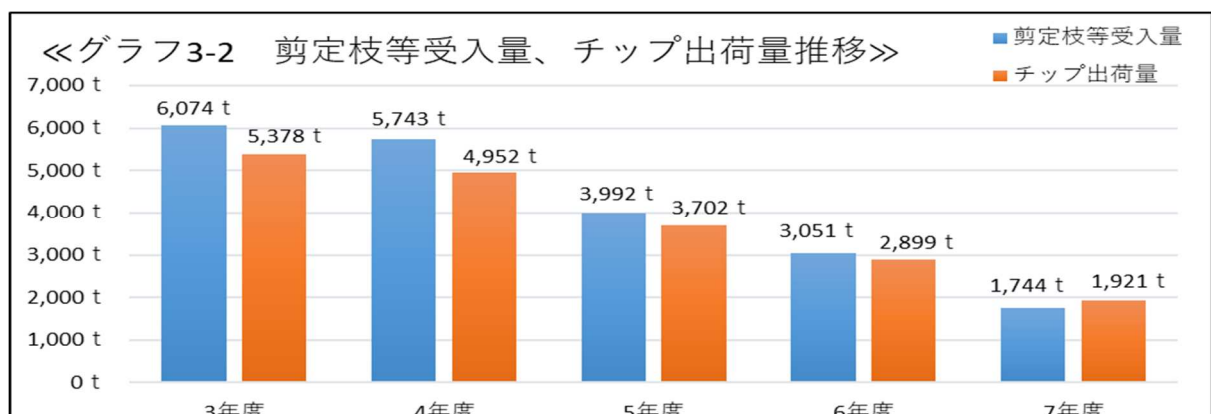
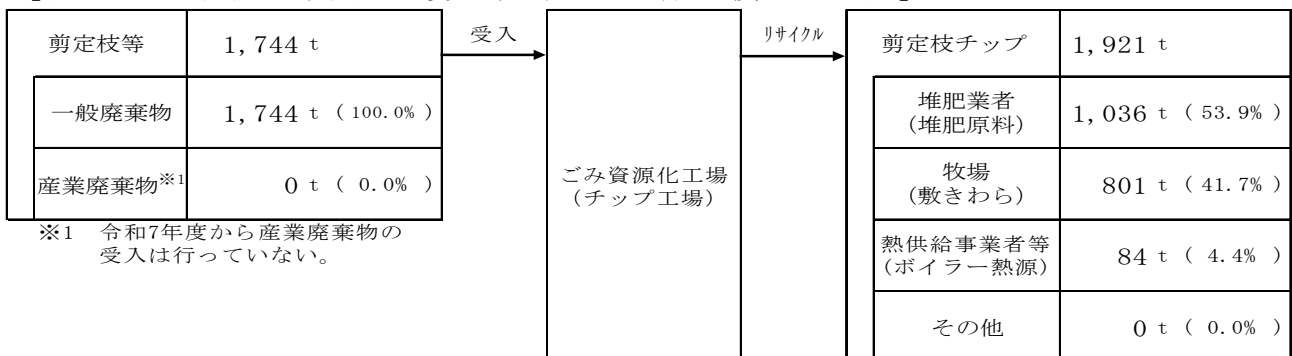
【チップ仕様】 45mm 以下 (用途に応じ原料の水分量を考慮、大きさ等を調整)

【供給先】 堆肥生産事業者 (堆肥原料)、熱供給事業者 (ボイラー熱源)、牧場 (敷きわら)

■令和 7 年度 事業実績

項目	計画	7年度実績	6年度実績	摘要
剪定枝等受入量	2,300 t	1,744 t	3,051 t	計画比 24.2% 減、前年度実績比 42.8% 減
チップ出荷量	2,300 t	1,921 t	2,899 t	計画比 16.5% 減、前年度実績比 33.7% 減

【図3-1 令和 7 年度 剪定枝等処理事業実績フロー図】



3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 1,061,685,284 円)

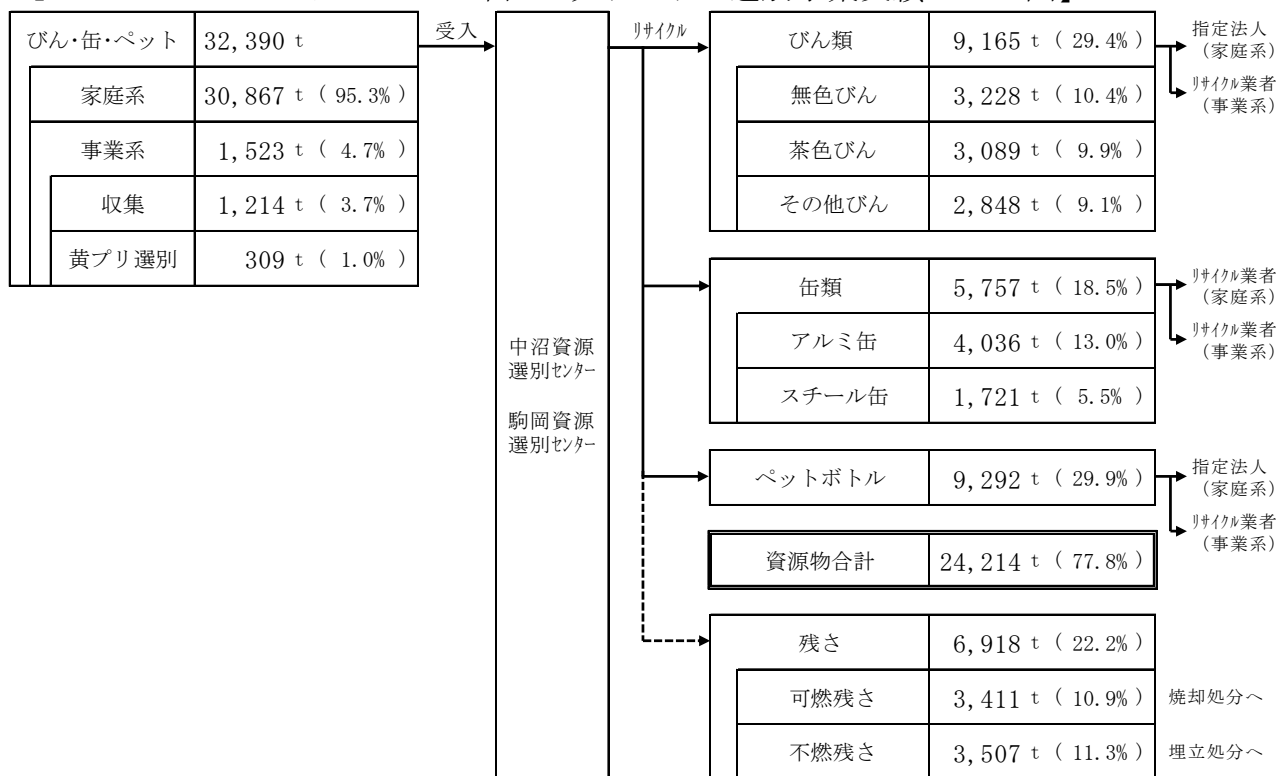
■事業概要

事業経緯	札幌市が容器包装リサイクル法に基づくびん・缶・ペットボトルの資源物収集を開始するに当たり、公社が選別施設を建設して市から選別業務の委託を受ける旨の協定を締結。施設の完成後、札幌市から事業を受託し、平成10年10月から本格実施。
目的	資源の有効利用、埋立地の延命化
実施内容	・札幌市が収集する家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会の分別基準に従い、選別、圧縮、梱包等の処理を行い、リサイクル業者に引き渡す等している。 ・公社が収集する事業系のびん・缶・ペットボトルについても、公社の自主事業として同様の処理を行っている。 ・なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、札幌市との協定に基づき、障がい者雇用促進の一環として軽度知的障がい者の福祉団体に委託している。 ・令和3年10月からは、札幌市が「びん・缶・ペットボトル」の日に別袋収集する乾電池の選別・梱包・保管をする作業を行っている。
実施場所 (受入施設)	中沼資源選別センター (平成10年9月竣工) 処理能力 36.7 t/日(8h)×3系列=110 t/日(8h) 駒岡資源選別センター (平成10年9月竣工) 処理能力 38.5 t/日(8h)×2系列= 77 t/日(8h)

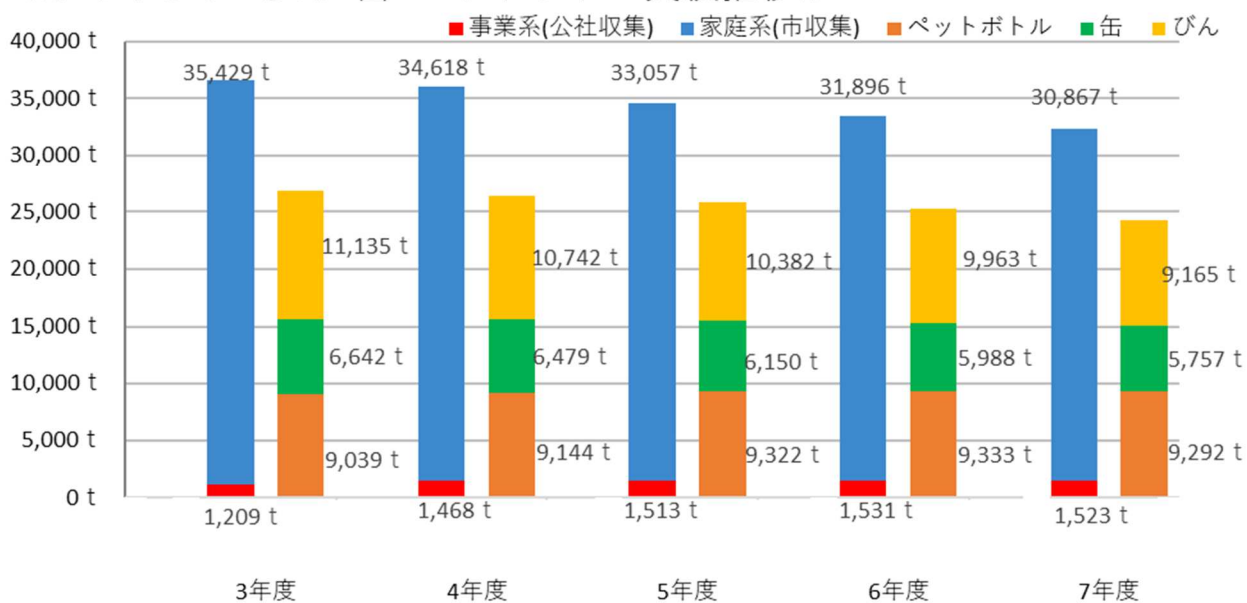
■令和7年度 事業実績

項 目		計 画		7年度実績		6年度実績		摘 要
受入量	中沼資源選別センター	22,132 t	家庭系 21,078 t 事業系 1,054 t	21,699 t	家庭系 20,660 t 事業系 1,039 t	22,132 t	家庭系 21,108 t 事業系 1,024 t	
	駒岡資源選別センター	11,618 t	家庭系 11,122 t 事業系 496 t	10,691 t	家庭系 10,207 t 事業系 484 t	11,295 t	家庭系 10,788 t 事業系 507 t	
	合 計	33,750 t	家庭系 32,200 t 事業系 1,550 t	32,390 t	家庭系 30,867 t 事業系 1,523 t	33,427 t	家庭系 31,896 t 事業系 1,531 t	家庭系: 計画比 4.1% 減、 前年度実績比 3.2% 減 事業系: 計画比 1.7% 減、 前年度実績比 0.5% 減
資源物搬出量	中沼資源選別センター	16,543 t		16,065 t		16,657 t		
	駒岡資源選別センター	8,866 t		8,149 t		8,627 t		
	合 計	25,409 t		24,214 t		25,284 t		
			びん類 10,066 t		びん類 9,165 t		びん類 9,963 t	計画比 9.0% 減、 前年度実績比 8.0% 減
			缶類 6,011 t		缶類 5,757 t		缶類 5,988 t	計画比 4.2% 減、 前年度実績比 3.9% 減
			ペット 9,332 t		ペット 9,292 t		ペット 9,333 t	計画比 0.4% 減、 前年度実績比 0.4% 減

【図3-3 令和7年度 びん・缶・ペットボトル選別事業実績フロー図】



《グラフ3-4 びん・缶・ペットボトル実績推移》



■令和7年度 事業実績(乾電池)

項 目	計画	7年度実績	6年度実績	摘 要
中沼資源選別センター	227 t	255 t	257 t	計画比 12.3% 増、前年度実績比 0.8% 減
駒岡資源選別センター	117 t	124 t	127 t	計画比 6.0% 増、前年度実績比 2.4% 減
合 計	344 t	379 t	384 t	計画比 10.2% 増、前年度実績比 1.3% 減

3-3 施設管理受託事業（決算額 179,728,979 円）

■事業概要

事業経緯	札幌市から委託を受け、市有リサイクル施設の運営管理を下記の4つの事業区分で当公社が実施している。
目的	市有施設の適正かつ効率的運用、安定したごみ処理の実施
実施内容	札幌市からそれぞれ専門業者に別途発注されている各施設のプラント運転、受入、選別、搬出等業務について、市の計画に基づき、密な連絡調整のもと、公社が各作業及び施設運営の総括管理を実施している。 また、これらの施設は新設された分岐棟を除き、いずれも老朽化が進んでいることを踏まえ、札幌市と連携して適切な運営管理に努める。 【事業区分】 (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 （ごみ資源化工場、篠路破碎工場、分岐棟） (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (4) 札幌市リサイクル団地管理事業

■令和7年度 事業実績

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業（決算額 83,572,210 円）

【管理対象施設】

ア ごみ資源化工場及び貯留サイロ等

- ・ごみ資源化工場（平成2年3月完成）、チップ工場（昭和63年3月完成）、貯留サイロ（昭和61年6月完成）
- ・事業系の紙くず及び木くずを受け入れて、ごみ資源化工場で固形燃料（RDF）を生産、貯留サイロで保管する。固形燃料は熱供給事業者へ供給している。

イ 篠路破碎工場等

- ・篠路破碎工場及び管理棟（昭和55年12月完成）
- ・篠路破碎工場で、自己搬入ごみ、大型ごみ等を受入れ、破碎処理している。

ウ 分岐棟（インフラ供給施設）

- ・付帯施設※に代わる受変電設備等のインフラ供給施設（令和3年8月完成）
※付帯施設（旧清掃工場）は令和7年3月 解体工事完了
- ・受変電設備、蒸気暖房設備、給排水設備、消火設備等を備えており敷地内各施設への供給等を行っている。

【事業内容】

- ・公社の実施内容は、ごみ資源化工場、篠路破碎工場及び分岐棟等の円滑な運営のため、各施設の稼働・保守を目的として札幌市が別途発注する各種業務・修繕等の調整、確認等を行うとともに、施設設備の維持管理を行う。
- ・別途発注業務
 - ごみ資源化工場： 運転業務、固形燃料運搬業務、定期整備業務等
 - 篠路破碎工場： 設備等運転業務、可燃物等運搬業務、分岐棟等運転業務、計量及び徴収業務、定期整備業務等

【令和 7 年度事業実績】

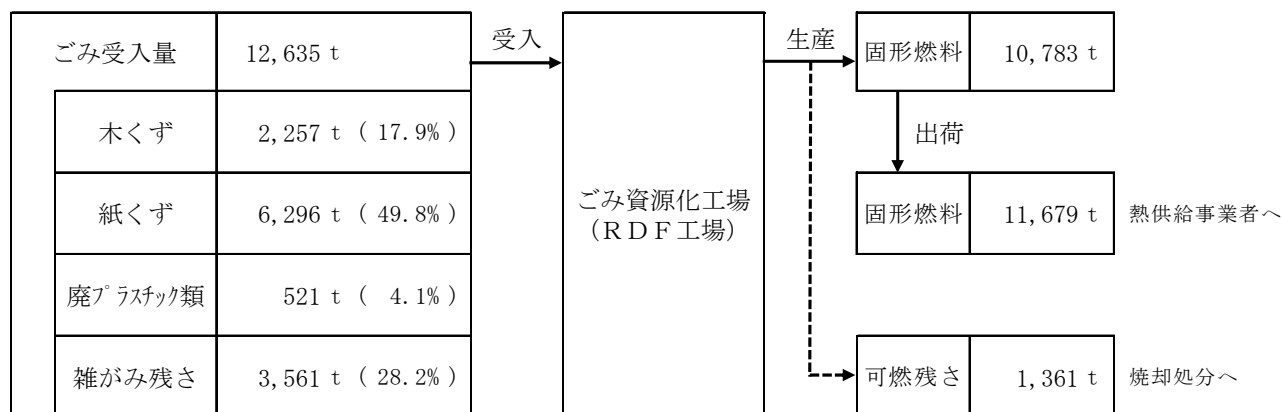
ごみ資源化工場（R D F 工場）

項 目	計画	7年度実績	6年度実績	摘 要
ご み 受 入 量	13,801 t	12,635 t	13,460 t	計画比 8.4% 減、前年度実績比 6.1% 減
固形燃料生産量	11,512 t	10,783 t	12,003 t	計画比 6.3% 減、前年度実績比 10.2% 減
固形燃料出荷量	12,663 t	11,679 t	11,958 t	計画比 7.8% 減、前年度実績比 2.3% 減

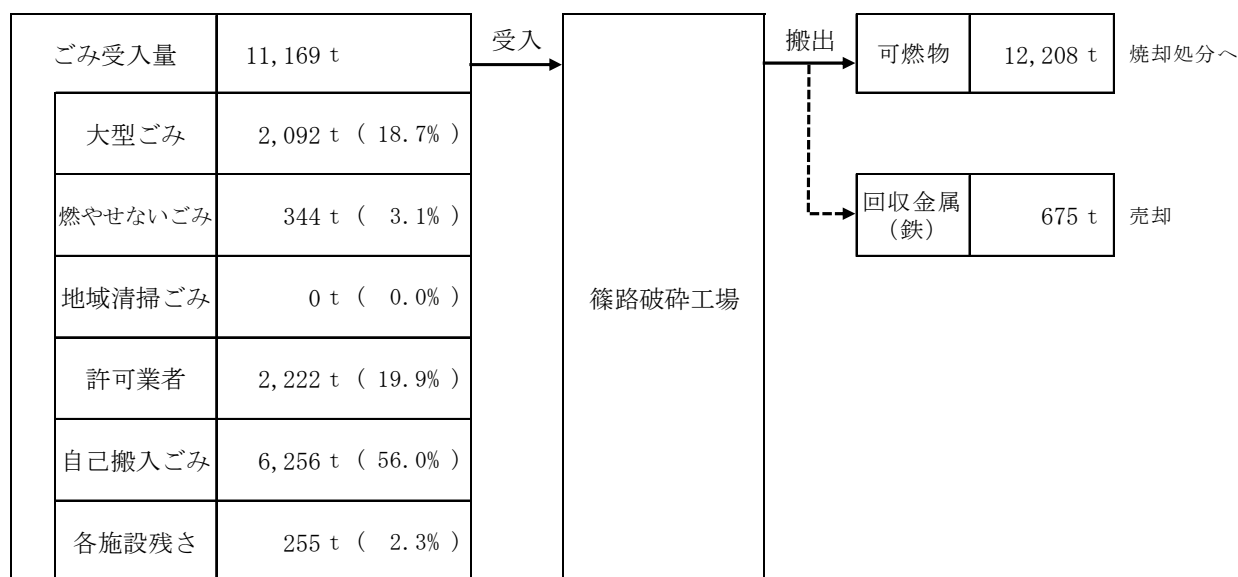
篠路破碎工場

項 目	計画	7年度実績	6年度実績	摘 要
ご み 受 入 量	11,515 t	11,169 t	12,380 t	計画比 3.0% 減、前年度実績比 9.8% 減

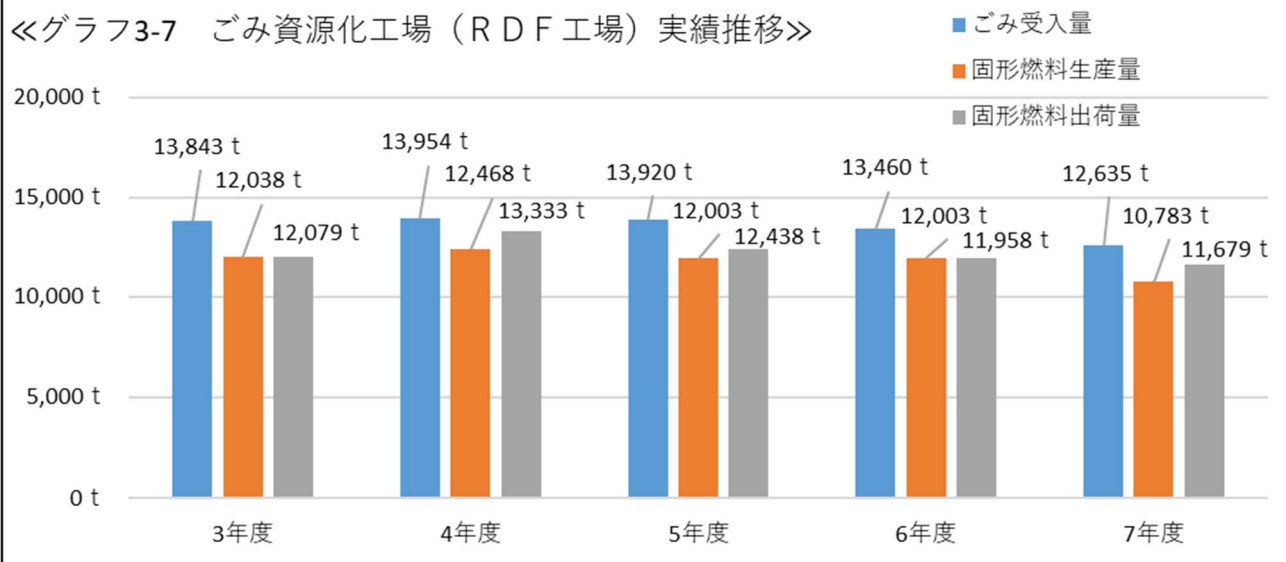
【図3-5 令和 7 年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



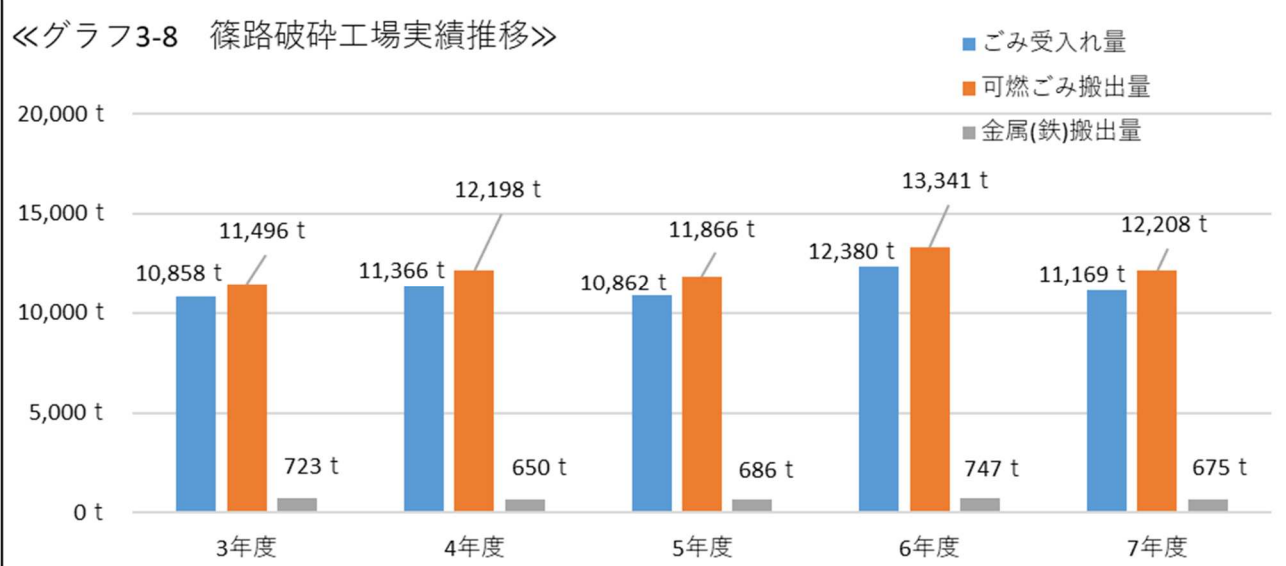
【図3-6 令和 7 年度 篠路破碎工場処理実績フロー図】



＜＜グラフ3-7 ごみ資源化工場（R D F 工場）実績推移＞＞



＜＜グラフ3-8 篠路破碎工場実績推移＞＞



(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（決算額 43,045,692 円）

【管理対象施設】

中沼プラスチック選別センター

- ・平成12年6月完成 処理能力82.6 t/日（3系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・札幌市が収集する容器包装プラスチックごみを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準に従い、選別、圧縮、梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者に引き渡す施設
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生プラスチックや高炉還元剤等

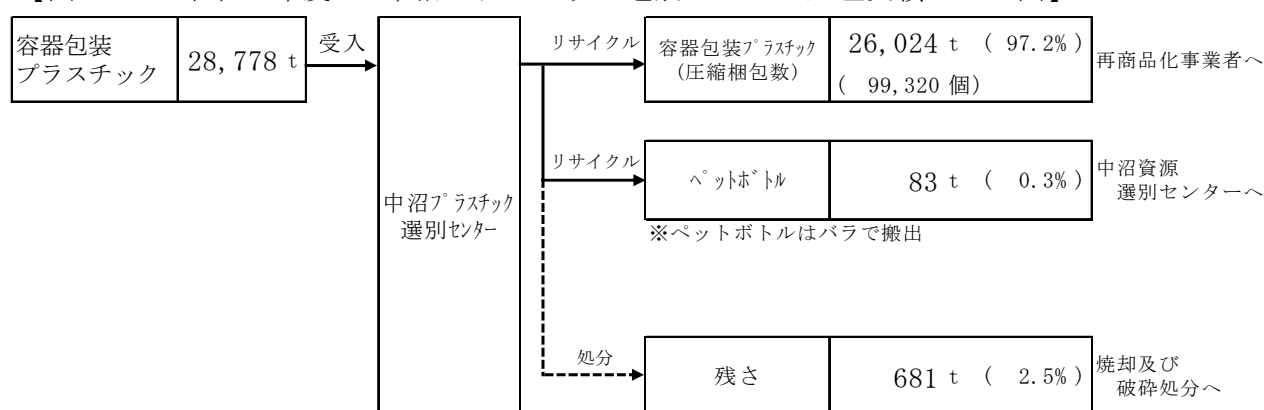
【事業内容】

- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行う。
- ・別途発注業務： 運転業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

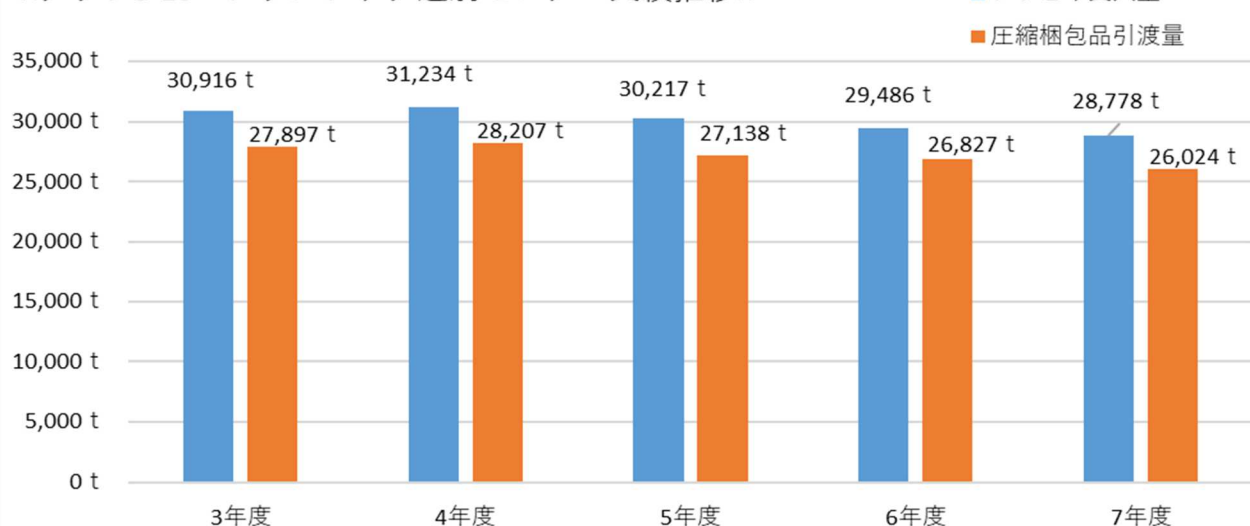
【令和7年度事業実績】

項 目	計画	7年度実績	6年度実績	摘 要
容器包装プラスチック受入量	29,800 t	28,778 t	29,486 t	計画比 3.4% 減、前年度実績比 2.4% 減
圧縮梱包品引渡量	27,613 t	26,024 t	26,827 t	計画比 5.8% 減、前年度実績比 3.0% 減

【図3-9 令和7年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】



＜グラフ3-10 プラスチック選別センター実績推移＞



(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業（決算額 27,172,003 円）

【管理対象施設】

中沼雑がみ選別センター

- ・平成21年7月供用開始（平成9年4月完成の旧建設系廃材リサイクルセンターを改修）
- ・処理能力85t/日（2系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・札幌市が収集する雑がみを受け入れ、選別、圧縮、梱包等の処理を行い、市が一般競争入札で売却先とした再資源化事業者を引き渡す施設
- ・再資源化事業者におけるリサイクル用途は再生紙、トイレトペーパーの原料等

【事業内容】

- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行う。

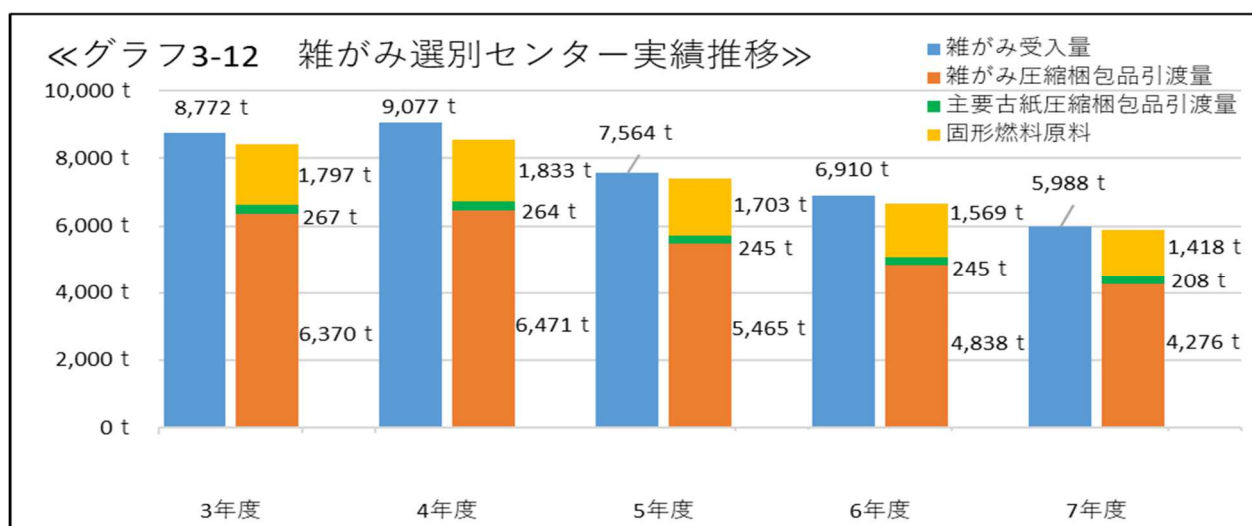
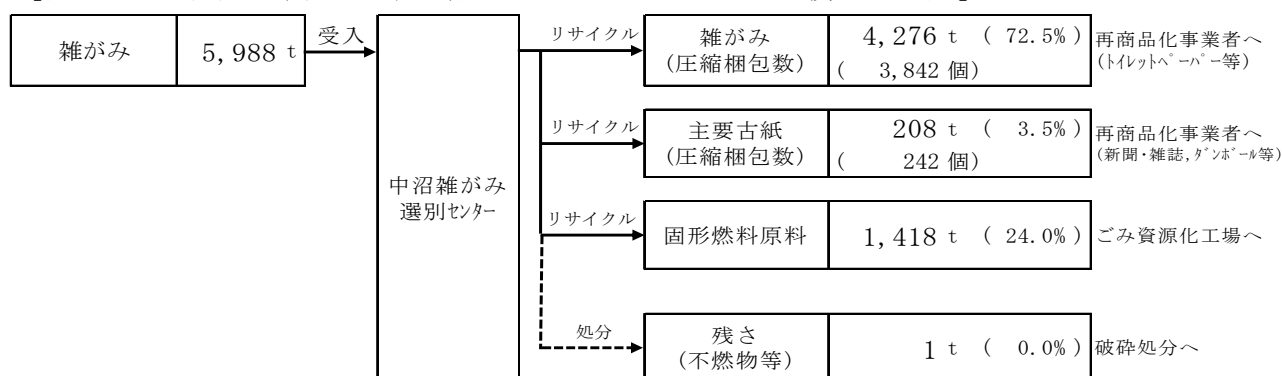
- ・別途発注業務： 運転業務、手選別業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

※手選別業務については知的障がい者雇用のため福祉団体に委託されている。

【令和7年度事業実績】

項 目	計画	7年度実績	6年度実績	摘 要
雑 が み 受 入 量	7,180 t	5,988 t	6,910 t	計画比 16.6% 減、 前年度実績比 13.3% 減
雑がみ圧縮梱包品引渡量	5,619 t	4,276 t	4,838 t	計画比 23.9% 減、 前年度実績比 11.6% 減
主要古紙圧縮梱包品引渡量	230 t	208 t	245 t	計画比 9.6% 減、 前年度実績比 15.1% 減
圧縮梱包品引渡量合計	5,849 t	4,484 t	5,083 t	計画比 23.3% 減、 前年度実績比 11.8% 減

【図3-11 令和7年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】



(4) 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 25,939,074 円)

【管理対象施設】

札幌市リサイクル団地

- ・札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理・リサイクルを総合的に行う廃棄物の中間処理群
- ・平成6～8年度に札幌市が基盤造成を実施。平成7年度から順次官民のリサイクル施設が立地し、現在は民間6社7施設、市有2施設、公社1施設の合計10施設が稼働している。

【事業内容】

当該団地管理事業は札幌市から委託を受けて公社が下記の業務を行う。

- ・リサイクル団地の連絡調整、見学対応等業務
- ・リサイクル資料館、ふれあいホールの維持管理業務
- ・井水供給設備の維持管理業務
- ・団地内の市道及び雨水桝等点検、雨水調整池等整備、市道清掃、除排雪、臭気指数等調査
- ・リサイクル団地協議会の運営業務（会議は原則月1回開催）
- ・その他の管理業務

【令和7年度事業実績】

- ・札幌市の所管課との密な連携のもと、いずれの事業も計画に従い適切に行った。
- ・リサイクル団地協議会を通じ、参入企業間の情報共有、各種調整を円滑に行った。

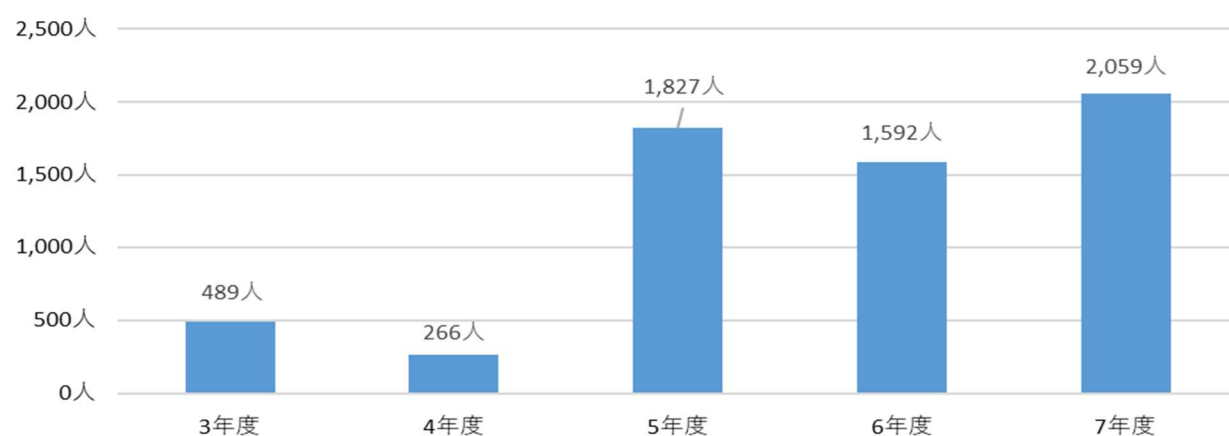
【表3-13 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和7年度実績の状況)
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
見学件数	71件	73件	128件	139件	145件	前年度実績比 4.3% 増
見学者数	489人	266人	1,827人	1,592人	2,059人	前年度実績比 29.3% 増

※見学申し込みの受付案内は主に当公社ホームページに掲載

※令和2～4年度は新型コロナ感染拡大防止策として札幌市及び公社施設は概ね見学中止、令和5年度より再開

《グラフ3-14 リサイクル団地見学者数推移》



4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 6,257,270,974 円)

■ 事業概要

事業経緯	平成6年4月から実施している公社の自主事業
目的	廃棄物の適正処理とリサイクルの推進
実施内容	1 札幌市内の契約事業所が排出する事業系一般廃棄物を収集運搬 ア 焼却する「一般ごみ」と「リサイクルごみ」に分けて分別収集 イ リサイクルごみの種類は、「資源化ごみ(紙くず・木くず・軟質プラスチック)」、「生ごみ」、「不燃用プリペイド袋」、「剪定枝」、「びん・缶・ペットボトル」 2 家庭から排出される引越ごみなどの一時的な多量ごみや自作パソコンの収集運搬
収集先	伝票収集：約10,000事業所、プリペイド袋収集：約25,000事業所
運搬先	「一般ごみ」→ 白石・駒岡・発寒の各清掃工場 「資源化ごみ」「不燃プリペイド袋」「剪定枝」→ 篠路のごみ資源化工場等 「生ごみ」→ 中沼の食品リサイクルメタン発酵・発電施設、定山溪環生舎 「びん・缶・ペットボトル」→ 中沼・駒岡の各資源選別センター

■ 令和7年度事業実績

(1) ごみの総収集量

区分	計画	7年度実績	6年度実績	摘 要
体積 m^3	1,030,630	1,053,409	1,037,964	計画比2.2%増、前年度実績比1.5%増
重量 t	157,600	156,417	157,240	計画比0.8%減、前年度実績比0.5%減

(2) 廃棄ごみ・リサイクルごみの収集量及び全体に占める割合

廃棄ごみ＝一般ごみ(可燃用プリペイド袋を含む。)

区分	計画	7年度実績	6年度実績	摘 要
体積 m^3	858,639	879,974	866,778	計画比2.5%増、前年度実績比1.5%増
重量 t	127,710	126,923	128,613	計画比0.6%減、前年度実績比1.3%減
割合%	83.3	83.5	83.5	廃棄ごみ体積／総収集量体積

リサイクルごみ＝一般ごみ以外

区分	計画	7年度実績	6年度実績	摘 要
体積 m^3	171,991	173,435	171,186	計画比0.8%増、前年度実績比1.3%増
重量 t	29,890	29,494	28,627	計画比1.3%減、前年度実績比3.0%増
割合%	16.7	16.5	16.5	リサイクルごみ体積／総収集量体積

(3) リサイクルごみの収集量 (体積m³)

ごみ種	計画	7年度 実績	6年度 実績	摘 要
資源化ごみ	79,740	77,569	81,050	計画比 2.7%減、前年度実績比 4.3%減
生ごみ	41,240	44,058	39,732	計画比 6.8%増、前年度実績比 10.9%増
不燃用プリ袋	29,333	29,241	28,748	計画比 0.3%減、前年度実績比 1.7%増
剪定枝	2,968	3,425	3,036	計画比 15.4%増、前年度実績比 12.8%増
びん・缶・ペット	18,710	19,142	18,620	計画比 2.3%増、前年度実績比 2.8%増
合 計	177,991	173,435	171,186	

(4) 家庭用パソコンのリサイクル収集台数 (回収メーカー不在、自作パソコン等)

資源有効利用促進法により、家庭系パソコンは各メーカーが回収しているが、自作パソコン等は当公社で収集している。

(単位：台)

収集品目	7年度実績	6年度実績	対前年度
パソコン本体等	21	33	12台減
ディスプレイ等	15	34	19台減
合 計	36	67	31台減

■ 直近5年間の事業実績 (ごみ総収集量の推移)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	平均値
体積m³	950,440	1,006,211	1,019,597	1,037,964	1,053,409	1,013,524
重量 t	146,713	154,089	155,771	157,240	156,417	154,046

■ 契約件数

(単位：件)

契約方法	7年度実績	6年度実績	対前年度
伝票収集	9,895	9,961	66件減
プリペイド袋収集	24,304	24,994	690件減
合 計	34,199	34,955	756件減

5 重点項目の実施状況

(1) ごみ収集料金改定に向けての準備

令和8年1月1日から札幌市の清掃工場等搬入分の焼却・埋立手数料が10 kg当たり200円から210円（5%の値上げ）に改定されたことに伴い、令和8年4月1日から公社の収集運搬料金の改定を行った。

改定内容は、一般ごみ（1 m³当たり5,800円から6,000円（3.4%の値上げ））、重量制（1 kg当たり27円から31円（14.8%の値上げ））などとしたが、資源化ごみ（認定単価）、生ごみ、ビン・缶・ペットボトルなどの料金については、リサイクル推進の観点から据え置きとした。

料金改定に係る事業者周知、新料金の契約改定事務については、令和7年9月から10月にかけて、「札幌薄野ビルディング協会」及び「北海道ビルディング協会」に対する説明会を実施したほか、11月に全事業所に対し料金改定案内文書を送付し、令和8年1月から契約先の5,072事業所に対して新料金契約書の締結を進めた。（3月末で約9割の進捗）

(2) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

ア 総収集回数の削減に向けた取組

あらかじめ取り決めてある収集曜日にごみが出されない日が多い、又は1回の排出量が3袋に満たないなど、ごみの排出量と収集回数が見合っていないプリペイド袋排出の348事業所に対し、収集量に見合った回数となるよう働きかけを行い、約7割の事業所で収集回数の削減が図られた。

イ 受付作業の軽減に向けた取組

WEBサポート機能の「プリペイド袋収集受付システム」の拡大を図るため、電話による申し込みが多い1,159事業所に対し当システムの利用案内を郵送した結果、システムの利用拡大につながり、令和8年3月の利用率は前年比3.3ポイント増の69.7%となった。

(3) 施設の計画的な整備・保全管理

令和7年度の計画的な施設保全整備として、中沼及び駒岡の両資源選別センターでエレベーターと小荷物専用昇降機の更新を行った。また、プラント設備では中沼資源選別センターのNo3供給コンベヤベルトの更新を行った。

(4) リサイクル等に関する調査研究

令和6年度及び令和7年度において「びん・缶・ペットボトル選別事業に関する調査」を実施した。引き続き令和8年度もごみ出しルール見直しに向けた基礎的調査、分析を継続する。

(5) 顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応

ホームページに一般競争入札となる業務の告示や事業系ごみ収集運搬事業の排出事業者へのお知らせ、働く「職員の声」などの最新情報を掲載したり、各種イベントへ出展や協賛を行うことにより広く市民に対して情報発信を行った。

(6) 生ごみリサイクルの分別推進

食品リサイクルメタン発酵・発電施設が令和6年10月から稼働したことにより、生ごみの処理能力が増強されたことから、札幌市環境局事業廃棄物課と協力して事業者の減量計画書等に基づき、個別訪問などによる分別排出の働きかけを行った。その結果、令和7年度中に27事業所が新たに生ごみ分別を開始した。

事業報告の附属明細書

令和7年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。